

小学校

平成 12 年 度

教育研究員研究報告書

体 育

東京都教育委員会

教育研究員名簿 第45期

第一分科会 (中学年・保健領域)

地 区	学 校 名	氏 名
新 宿 中 野 杉 並 練 馬 立 川 青 梅 東 村 武 蔵	戸塚第一小	○河 口 尚 志
	西中野小	佐 野 浩 進
	桃井第三小	□北 里 浩 一
	石神井台小	織 茂 直 樹
	第九小	大 桃 昌 博
	第五小	吉 岡 慎 一
	野火止小	小 沼 悦 子
	第二小	斉 藤 浩 雄

第二分科会 (高学年・保健領域)

地 区	学 校 名	氏 名
品 川 目 黒 大 田 世 田 渋谷 渋谷 調 布 町 田 多 摩 稲 城	八潮小	□川 嶋 正 昭
	上目黒小	辻 正 道
	女塚小	○渡 部 浩 文
	池之上小	戸 田 靖 男
	常磐松小	山 口 正 一
	柏野小	大 西 信 成
	大蔵小	三 橋 之 嘉
	東落合小	高 橋 伸 敏
	若葉台小	上 田 敏 廣

第三分科会 (表現運動領域)

地 区	学 校 名	氏 名
墨 田 江 東 豊 島 北 荒 川 板 橋 足 立 葛 飾 江 戸	二葉小	小 林 大 志
	豊洲小	山 内 日 登 志
	文成小	景 山 賢 治
	王子第三小	○木 村 高 一 郎
	第三日暮里小	○石 塚 秀 行
	高島第六小	◎小 高 敏 男
	加平小	□井 上 龍 夫
	花の木小	齋 藤 尊 久
	南小岩小	望 月 早 苗

◎ 総世話人

○ 世話人

□ 副世話人

担当 教育庁体育部体育健康指導課 指導主事 田 尻 栄 吉
指導主事 酒 井 寛 昭

目 次

〔保健〕	
I	研究主題 ----- 2
II	研究主題設定の理由 ----- 2
III	研究の構想 ----- 2
IV	研究の内容 ----- 3
1	調査研究 ----- 3
(1)	調査の目的 ----- 3
(2)	調査の方法 ----- 3
(3)	調査の結果と分析 ----- 3
(4)	考察及び研究の視点との関連 ----- 4
2	研究の考え方と具体的内容 ----- 5
(1)	保健学習の考え方 ----- 5
(2)	研究の具体的内容 ----- 6
3	実践事例 ----- 7
(1)	第3学年「毎日の生活と健康」
	①学習過程 ----- 7
	②授業事例 ----- 8
(2)	第4学年「育ちゆく体とわたし」
	①学習過程 ----- 9
	②授業事例 ----- 10
(3)	第5学年「けがの防止」
	①学習過程 ----- 11
	②授業事例 ----- 12
(4)	第5学年「心の健康」
	①学習過程 ----- 13
	②授業事例 ----- 14
(5)	第6学年「病気の予防」
	①学習過程 ----- 15
〔表現運動〕	
I	研究主題 ----- 17
II	研究主題設定の理由 ----- 17
III	研究の構想 ----- 17
IV	研究の内容 ----- 18
1	調査研究 ----- 18
(1)	調査の目的 ----- 18
(2)	調査の方法 ----- 18
(3)	調査の結果と分析 ----- 18
(4)	考察及び研究の視点との関連 ----- 19
2	研究の考え方と具体的内容 ----- 20
(1)	リズムダンスのとらえ方 ----- 20
(2)	研究の具体的内容 ----- 21
3	実践事例 ----- 22
(1)	第3・4学年「リズムダンス」
	①学習過程 ----- 22
	②授業事例（第4学年） ----- 23
V	研究のまとめ ----- 24

[保健]

I 研究主題

健康な生活を自ら実践していく力を培う保健学習

II 研究主題設定の理由

これからの学校教育は、「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、自ら学び、自ら考える力、豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力の育成などの「生きる力」を育成することが求められている。また、児童の心身の健康問題の深刻化や多様化、発育・発達の早期化、生活習慣病の兆候などを踏まえ、教育課程審議会答申の保健の改善方針については「生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培うため、健康の大切さを認識し、健康なライフスタイルを確立する観点に立って、内容の改善を図ること」と示された。

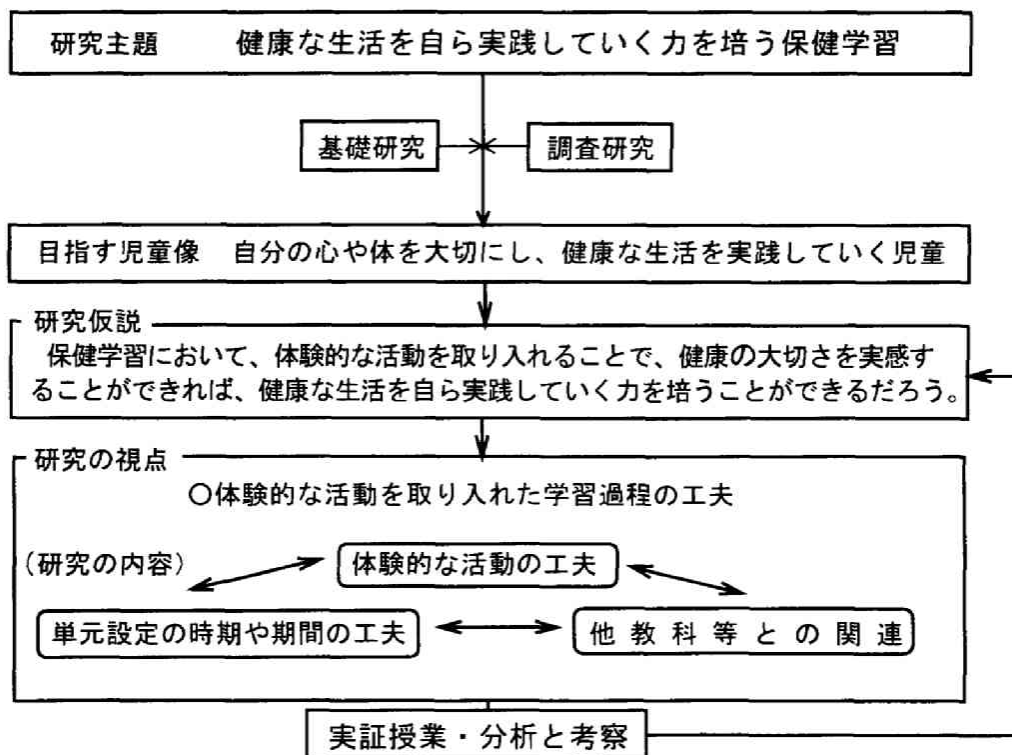
このような趣旨を踏まえ、新学習指導要領の体育科においては、目標を「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」とし、運動領域と保健領域とを一層関連させていく考え方が強調されている。

保健学習においては、健康の大切さや安全の必要性などの基礎的・基本的な内容を単に知識や記憶としてとどめるだけではなく、身近な生活における課題を発見し、解決する過程を通して実践的に理解することが大切である。また、健康・安全についての実践的な理解を通して、自らの生活行動や身近な生活環境における課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を培うことも大切である。

そこで、研究主題を「健康な生活を自ら実践していく力を培う保健学習」と設定し、児童が健康・安全について考え、理解したことを主体的に生活に生かしていくことができる力の基礎を培うための保健学習の進め方について追究していくことにした。

児童は、健康・安全の大切さを、知識として理解していても、それらが実際の行動には結びついていないという現状がある。この現状を踏まえ、児童が健康・安全について、その大切さをより深く認識し、実感できる学習から、さらに行動に結び付け、実践しようとする学習へとつなげる工夫をし、主題に迫りたいと考えた。

III 研究の構想



IV 研究の内容

1 調査研究

(1) 調査の目的

保健に関する児童の意識や生活実態と教師の意識や指導実態を探り、本年度の研究を進めていく手がかりとする。

(2) 調査の方法

①調査期間・方法 平成12年6月下旬 質問紙法による

②調査対象と対象者数

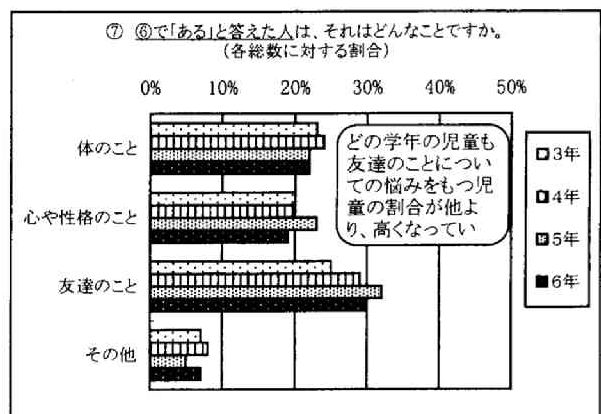
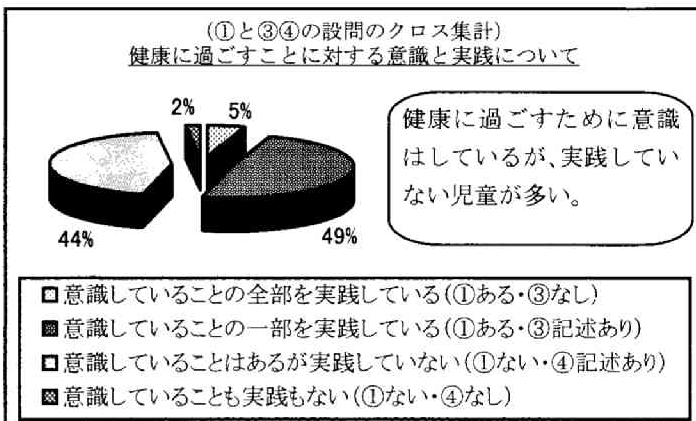
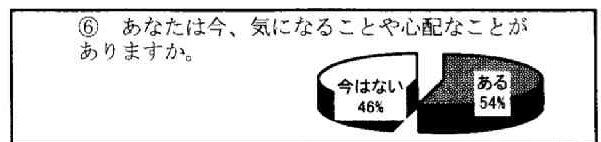
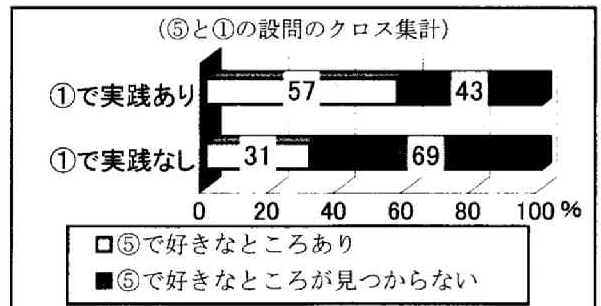
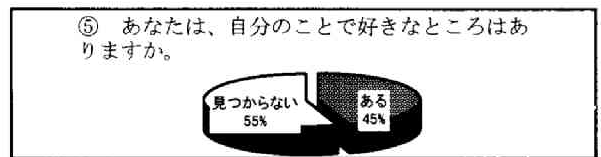
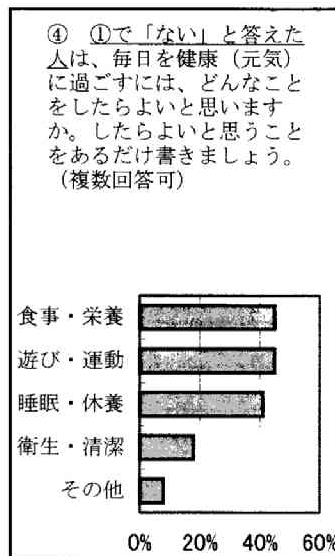
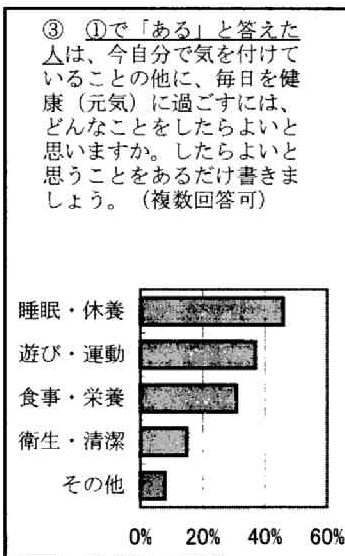
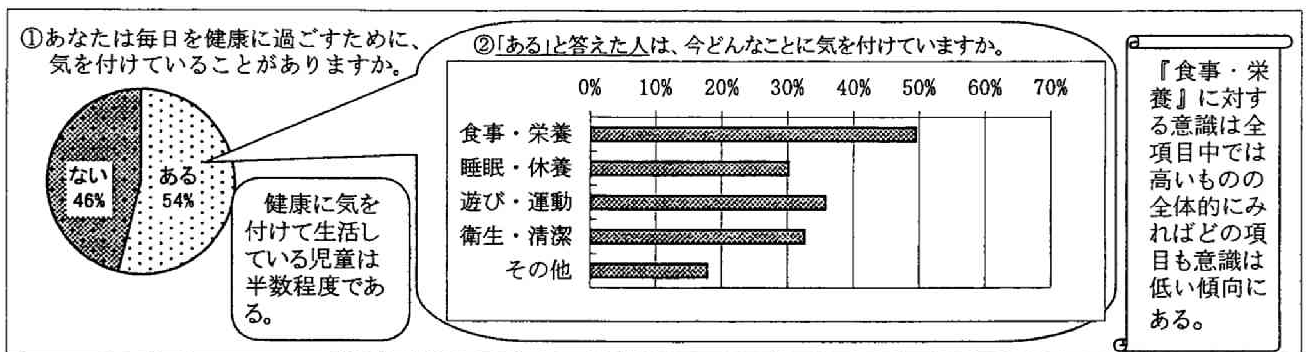
児童 第一・第二分科会研究員所属校の第3, 4, 5, 6学年児童

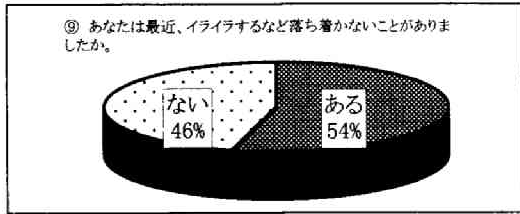
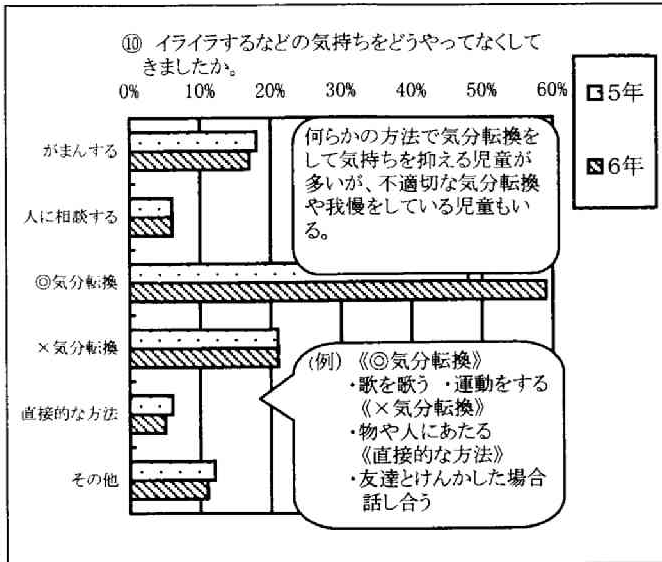
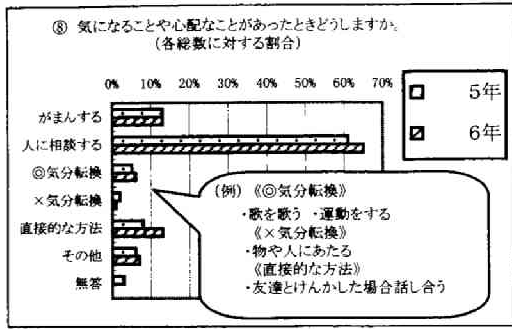
教師 第一・第二分科会研究員所属校及び所属地域における無作為抽出校の現3, 4, 5, 6年生担任の教師

	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	合計
児童	989人	1,016人	932人	1,018人	3,955人
教師	103人	100人	104人	111人	418人

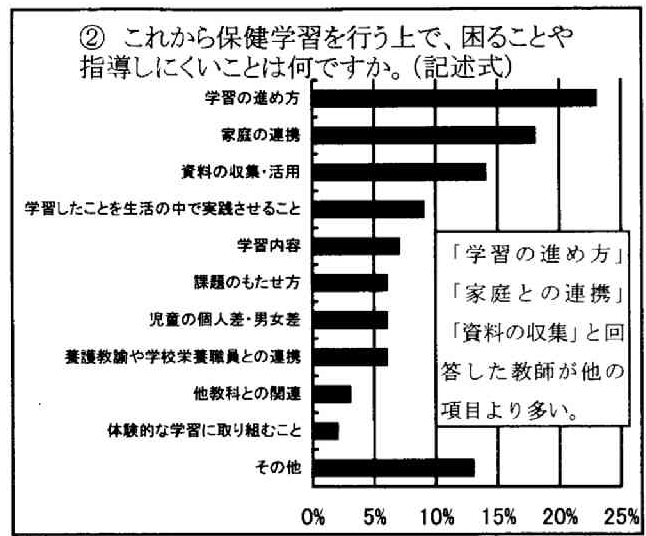
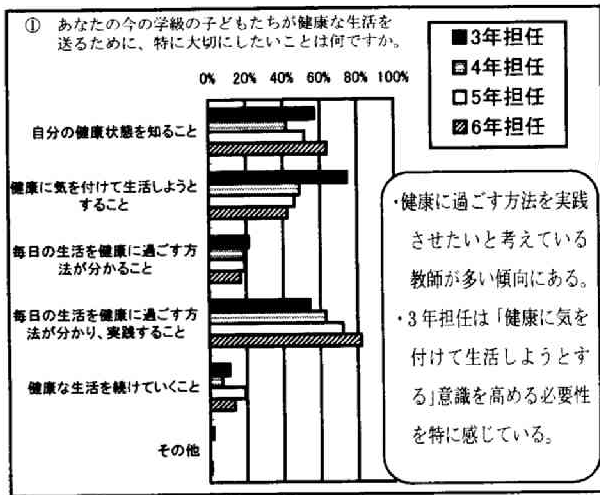
(3) 調査の結果と分析

◎児童用アンケート (⑧~⑩は、5・6年生のみ実施。)



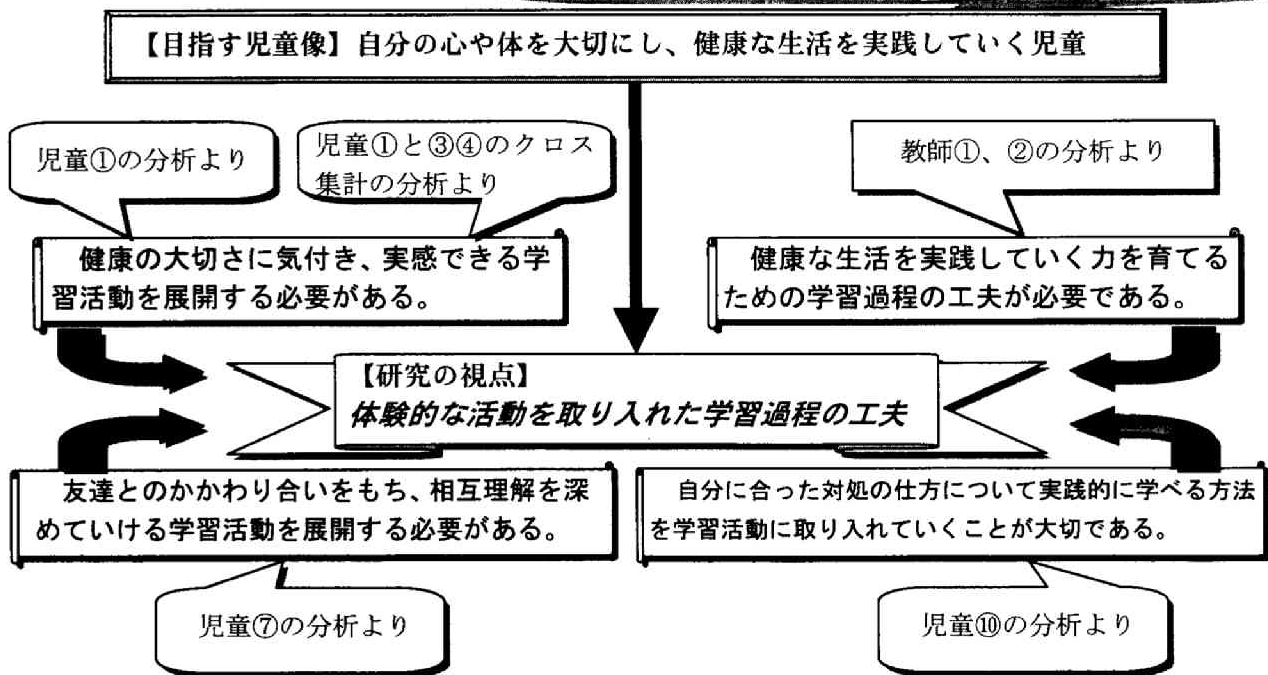


◎教師用アンケート



(4) 考察及び研究の視点との関連

(児童) 健康に過ごすために気を付けていることがある児童は、ない児童より自分のことで好きなところがある割合が高い傾向にある。



2 研究の考え方と具体的内容

(1) 保健学習の考え方

日々の学習の中に体験的な活動を取り入れることは、児童が生きてはたらく知識を獲得し、生きる力をはぐくんでいく上で重要なことである。

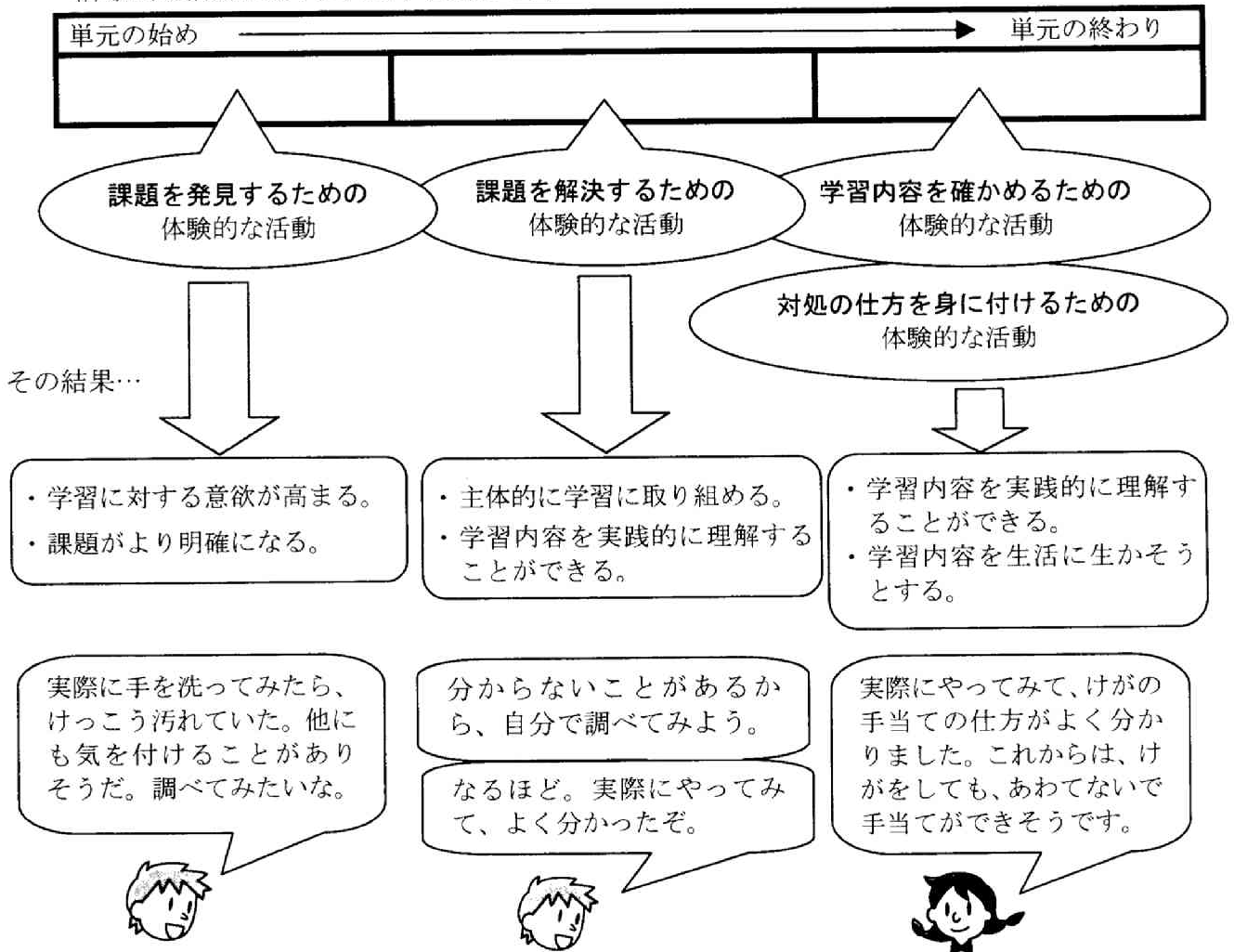
保健学習においても、生きる力をはぐくむためには、児童にとって身近な日常生活の体験や事例などをもとに、具体的に考えたり、話し合ったりするグループ活動、ロールプレイングなどを用いて疑似体験する活動、実験、実地調査などの実習を積極的に取り入れて指導し、児童が基礎的・基本的な内容を実践的に理解することができるようにすることが大切である。また、課題解決的な学習を進めることが生活に生きて働く力を育成する上で有効であると考えた。

(2) 研究の具体的内容

① 体験的な活動の工夫

児童が、主体的に学習を進め、より実践的な理解を深められるようにするため、各学年の単元における学習過程の中で、どこで、どのような体験的な活動を取り入れたら効果的であるかを研究した。

〈体験的な活動を取り入れた学習過程の例〉



② 単元設定の時期や期間の工夫

各学年の学習内容について、児童の学習がより主体的、効果的に進められるように、単元の時期や期間をどのように設定すればよいかを研究した。

ア 単元設定の時期

保健学習を健康教育全体の中の一部としてとらえると、各学校の年間指導計画のどの部分に位置付けるかを考えることが大切である。そこで、定期健康診断や水泳指導の行われる時期、インフルエンザの流行する時期など、適切な時期に効果的に学習が進められるように、時期を考慮した単元を設定した。

〈単元設定の時期の例〉

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
		毎月の健康と生活けがの防止							育ちゆく体とわたし心の健康病気の予防		

イ 単元設定の期間

児童が課題を解決する学習では、そのための活動の時間を十分確保することが大切である。そこで、保健学習の1つの単元において、児童が自分で取材をしたり、自分の生活を振り返ったりするための時間が確保できるような期間の設定を工夫した。

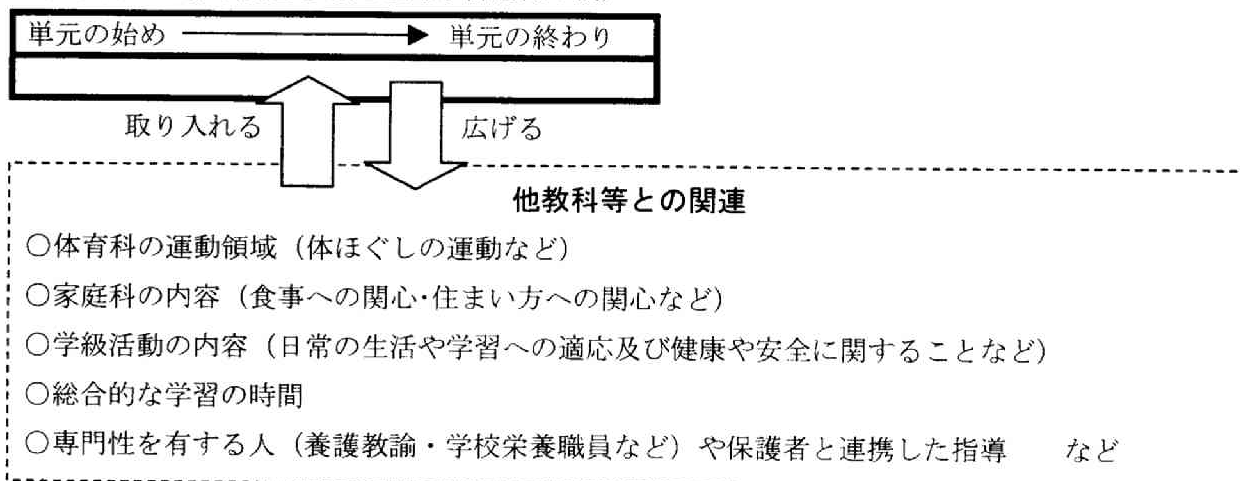
〈学習時間の間にゆとりをもたせた学習過程の例〉



③ 他教科等との関連

保健学習において、学習の効果を高めるために、運動領域の内容や他教科等の内容との関連及び、専門性を有する人や家庭との連携を図ることが大切である。そこで、保健学習に他教科等の内容を取り入れたり、保健学習で学んだ内容を他教科等で生かしたり、養護教諭や学校栄養職員などのT、Tを取り入れたりするなど、他教科等との関連を工夫した。

〈他教科の内容と関連をもたせた学習過程の例〉



3 実践事例

(1) 第3学年「毎日の生活と健康」(4時間扱い)

①学習過程

単元のねらい

- 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活の仕方が理解できるようにする。
- ・ 毎日を健康に過ごすためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。
 - ・ 毎日を健康に過ごすためには、体の清潔を保つことや明るさ、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。

時	ね ら い	学 習 活 動 (☆体験的な活動)
1	「手を洗う実験」を通して健康な生活の仕方に関心をもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">健康な生活を過ごすために大切なことを考えよう。</div> <p>○健康の意味を考える。</p> <p>☆手を洗う実験をする。</p>
2	健康な生活を過ごすためにいろいろなことを行っていることを理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">健康な生活を過ごすために行っていることにはどんなことがあるのか考えよう。</div> <p>○健康な生活を過ごすために自分たちが行っていることについて話し合う。</p> <p>☆1週間、生活チェック表をつけていく。</p>
3	健康な生活を過ごすためには一日の生活の仕方が深くかかわっていることを理解する。 健康な生活を過ごすために様々な保健活動が行われていることを理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">生活チェック表を見て生活の仕方を調べてみよう。</div> <p>○生活チェック表を見て気付いたことや分かったことについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">健康な生活のために行っていることを絵の中から見付けよう。</div> <p>○気持ちよく生活するために、学校では様々な保健活動が行われていることについて話し合う。</p>
4	健康な生活を過ごしていくために大切なことを表現することができる。 健康な生活を続けていこうとする意欲をもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習のまとめをしよう。</div> <p>☆学習したことを基に、健康カルタを作って遊ぶ。</p> <p>○作品を発表し合い、健康な生活するために大切な活動はこれからも続いていくことを確認する。</p>

②授業事例 (1/4時)

本時のねらい ・「手を洗う実験」を通して、健康な生活の仕方に関心をもつ。

・支援 ◎評価

学 習 活 動	教 師 の 支 援
<p>健康な生活を過ごすために大切なことを考えよう。</p>	
<p>1 健康の意味について考える。</p> <p>今日の調子はどう？</p> <p>今日は元気だよ。</p> <p>ちょっと眠いよ。ゲームをやっていて、寝るのが遅くなっちゃった。</p> <p>体や心の調子がよいことを、「健康」といいます。</p>	<p>・話し合い活動の後に、体や心の調子がよいことを健康とおさえる。</p> <p>◎健康の意味が分かったか。</p>
<p>2 手を洗う実験をする。</p> <p>○手を洗う理由を発表する。</p> <p>今日は、手を洗う実験をしてみます。</p> <p>みんなは、どうして手を洗うの？</p> <p>汚れているから。</p> <p>ばい菌が体の中に入っちゃうから。</p>	<p>・自分の生活を振り返り、自由に発表できるように助言する。</p> <p>・実験のポイントを示す。</p>
<p>① 片くり粉を固めたのりを、ハンドクリームのように手と手首によく塗って、乾かす。</p> <p>② 水で手をよく洗って、ふかずに水をきり、ヨウ素液（水 1 リットルにつきヨウ素液 10 ミリリットル）にひたす。</p> <p>③ のりが落ちていないところが紫色に変わるので、汚れが残っている様子を見た後、石鹼を使って手をよく洗い、またヨウ素液につけて汚れの落ちを確かめる。</p>	<p>◎意欲的に手を洗う実験に取り組むことができたか。</p>
<p>なかなか、汚れが落ちないなあ。</p> <p>こう洗えば、きれいになるのか。</p> <p>手を洗うことも大切なんですよ。</p>	
<p>3 健康に過ごすために行っていることについて考える。</p> <p>健康のために、他にはどんなことをしていると思う？</p> <p>嫌いなものも、食べるようにしています。</p> <p>早ね早起きをしているよ。</p>	<p>・自分の生活を振り返り、自由に発表できるように助言する。</p>
<p>4 分かったことや思ったことを学習カードに記入する。</p> <p>他にも、健康のためにしていることがありそうですね。聞いてみてもいいですね。</p>	<p>◎健康な生活の仕方に、関心をもつことができたか。</p>

(2) 第4学年「育ちゆく体とわたし」(4時間扱い)

①学習過程

単元のねらい



- 体の発育・発達について理解できるようにする。
 - ・ 体は、年齢に伴って変化すること。また、体をよりよく発育・発達させるためには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であること。
 - ・ 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

時	ねらい	学習活動(☆体験的な活動)
1	<p>体は、年齢に伴って変化していることを理解する。</p> <p>体の発育・発達には調和のとれた食事、適切な運動、休養が必要であることを理解する。</p>	<p>自分の体の変化について調べよう。</p> <p>○以前使っていた机、帽子、洋服などを見て、今までの体の変化とこれからの体の変化について関心をもつ。</p> <p>1年生から4年生までの身長の変化を調べよう</p> <p>○身長について取り上げ、自分の伸びをテープで表したのを見て、年齢に伴って変化していることに気付く。 ☆テープをグラフに表し、自分のグラフと友達のグラフを見合う。</p> <p>○体をよりよく発育・発達させるためにはどうしたらよいか経験を基に考える。</p>
2	<p>思春期には体つきに変化が起る。男子と女子の異なる特徴を理解する。</p>	<p>男女の体の変化について考えよう。</p> <p>○男女の子どもの図を見て比較し、性器以外で顕著な違いは見あたらないことに気付く。 ○成人男女の違いとこれからの成長を知る。</p> <p>大人になるとどのような違いが現れるか考えよう。</p> <p>☆グループで話し合い、シルエットカードに思春期に発現する特徴を描き加えながら成人の体に近づけていく。(発毛、変声、体つきなど)</p> <p>○自分たちの作った体の図と完成図とを比較し、これからの自分の発育・発達に気付く。</p>
3	<p>思春期には精通、初経が起る。思春期は異性への関心が芽生える。これを理解する。</p>	<p>男女の体の変化について考えよう。(精通、初経)</p> <p>○精通の現象について知る。 ○初経の現象について知る。 ○変声の現象について知る。 ○異性に関心をもつことも、大人の体に近づく現象の一つであることを知る。</p>
4	<p>思春期を迎える友達に何を言おうか考える。</p> <p>学習したこと、これからの生活について考える。</p>	<p>思春期を迎えた友達にどんな言葉かけをしてあげればよいか、ロールプレイングを通して考えよう。</p> <p>○日常の起こりそうな場面で、自分ならどんな言葉かけをするか考える。 ☆グループで考えたことをロールプレイングで発表する。</p> <p>学習のまとめをしよう。</p> <p>○学習したことを基に、これからの自分の生活について考える。</p>

②授業事例 (4/4時)

本時のねらい ・思春期を迎えた友達に対する言葉かけを考える。
 ・学習したことを基に、これからの自分の生活について考える。

・支援 ◎評価

学 習 活 動	教 師 の 支 援
<p>思春期を迎えた友達にどんな言葉かけをしてあげればよいか考えよう</p> <p>1 思春期で悩んでいる友達に、どんな言葉かけをしたらよいか考える。 ◎悩みに対する答えを自分で考える。</p> <p> 思春期のことで悩んでいる友達から相談を受けたら、どう答えるかな。</p> <p>言葉かけのポイント 1 正しい説明 2 安心できる言葉</p> <p>悩んでいる友達にどう言ったら安心するかな。</p> <p>2 グループで考えたことをロールプレイングで発表する。 ◎どんな言葉かけがよいか考えながら、グループ内でロールプレイングをする。</p> <p>〇〇君が考えたように言われるとうれしいと思うな。</p> <p>◎ロールプレイングで発表する。</p> <p> 大人になるための大事なことなんだよ。個人差があるんだよ。</p> <p>そうか。個人差があるから心配しなくてもいいんだ。ほっとしたよ。</p> <p>3 これまで学習してきたことを振り返り、分かったことや思ったことを学習カードに記入する。</p> <p>これまで学習してきたけどどんなことが大切だと思った？</p> <p>生活の仕方に気を付けていこう。</p> <p>自分の体を大切にしたい。</p> <p>体の成長は一人一人違っていいんだ。</p>	<p>・初経、精通、変声、発毛等の事例のうち、実態に応じていくつか取り上げるようにする。</p> <p>・相談を受けた友達になりきって言葉かけを考えるように助言する。</p> <p>・これまでの学習を思い出して考えるように助言する。</p> <p>・ロールプレイングのやり方について説明する。</p> <p>・グループでよいと思った言葉かけを選ぶように助言する。</p> <p>・相談する人を教師が行い、児童が相談を受けた友達として発表する。</p> <p>・教師が言葉かけに対し認め賞賛する。</p> <p>◎これからどんな言葉かけをすればよいか分かったか。</p> <p>◎今まで学習してきたことを基に、これからの自分の生活について考えることができたか。</p>

(3) 第5学年「けがの防止」(4時間扱い)

①学習過程

単元のねらい

- けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。
- ・交通事故、学校生活の事故などによるけがの防止には、周囲の危険に気付いて、的確な判断の下に安全に行動することや環境を整えることが必要であること。
 - ・けがをしたときなどは、速やかに手当をする必要があること。また、簡単な手当ができること。

時	ね ら い	学 習 活 動 (☆体験的な活動)
1	学校生活で起きるけがとその原因を知り、けがの防止について理解する。	<p>けがをどのように防いだらよいか考えよう。</p> <p>☆自分がけがをしたときのことを思い出し、ブレインストーミングをする。</p> <p>学校で起きる事故を防ぐ方法を考えよう。</p> <p>○学校で起きるけがの原因について話し合う。</p> <p>○けがの防止について考え、話し合う。</p>
2	実際に校内を歩いて調べ、環境を安全に整える必要性を理解し、自らの行動を振り返る。	<p>学校安全探検隊になろう。</p> <p>☆校内を歩き、危険なところや安全に工夫しているところを探す。</p> <p>○けがの防止には、環境を整えることが必要ということを知る。</p> <p>○けがを防ぐ方法について考え、話し合う。</p>
3	自分の家の周りなど身近なところで起きる事故とその原因を知り、その防止について理解する。	<p>身近な生活の事故を防ぐ方法を考えよう。</p> <p>○身近に起きる事故について考え、話し合う</p> <p>○自分の家の周りで、危険なところや安全に工夫しているところがないか考え、話し合う。</p> <p>○他にもいろいろな事故があり、水の事故についても注意が必要なことを知る。</p> <p>○身近なところで起きる事故の防止について話し合う。</p>
4	自分でできるけがの手当を知り、実際にできるようにする。	<p>自分でできるけがの手当を身に付けよう。</p> <p>○けがをしたときにどのようなことをしたか話し合う。</p> <p>☆養護教諭に正しいけがの手当の仕方を聞き、実習する。</p> <p>「けがの防止」の学習を振り返ろう。</p> <p>○単元全体を振り返り、分かったことや感想を発表する。</p>

②授業事例（1／4時）

本時のねらい ・学校生活で起きるけがとその原因について知り、けがの防止について理解する。

・支援 ◎評価

学 習 活 動	教 師 の 支 援
<p>学校生活で起きる事故の原因を考えよう。</p> <p>1 自分の体験をもとに発表し合う。</p> <p>学校で生活しているときに、どんなけがをしたことがありますか。</p> <p>打ぼくやねんざ</p> <p>すり傷や切り傷</p> <p>骨折</p> <p>つき指</p> <p>2 体験したけがの原因について考える。</p> <p>どうしてそんなけがをしたんだろう。考えてみよう。</p> <p>不注意だった。よく見ていなかった。</p> <p>ろうかですべった。</p> <p>けんかをしていた。</p> <p>かぜをひいていた。</p> <p>3 けがは、体の調子や心の状態、環境によっておこることを知る。</p> <p>けがの原因が分けられそうだね。分けてみよう。</p> <p>人の行動</p> <p>環境</p> <p>けんかをしていたのは、心の状態かな。</p> <p>ろうかがすべるのは環境だね。</p> <p>4 学校の安全探検隊になって校内の巡視をする準備をする。</p> <p>学校の安全探検隊になろう。</p> <p>みんなけがをしない工夫はないかな。</p> <p>けがをしやしいところはどこだろう。</p>	<p>・ワークシートを活用する。</p> <p>・環境にも目を向くように言葉かけをする。</p> <p>◎けがの原因について考えることができたか。</p> <p>・キーワードとして2つの要素を投げかける。</p> <p>・学習カードを使って、分けていく。</p> <p>◎けがは、人の行動、環境によっておこることを知ることはできたか。</p> <p>・カードに予想を書くようにする。</p> <p>・次時への意欲をもつようにする。</p> <p>◎校内の安全調べに意欲がもてたか。</p>

(4) 第5学年「心の健康」(5時間扱い)

①学習過程

単元のねらい

- 心の発達及び不安、悩みへの対処の仕方について理解できるようにする。
 - ・心は、いろいろな生活経験を通して、年齢とともに発達すること。
 - ・心と体は密接な関係にあり、互いに影響し合うこと。
 - ・不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

時	ねらい	学習活動 (☆体験的な活動)				
1	<p>心についての関心を高め、自分の心の成長に気付く。</p> <p>心も体と同じように成長していることや心と体には関係があることに気付くことを理解する。</p>	<p>心の探検隊となって、みんなで心の健康について探ってみよう。</p> <p>心について思いつくことを発表してみよう。</p> <p>○心について知りたいことや疑問に思うことを発表し、心について関心をもち、心に対するイメージを膨らませる。☆「ブレインストーミング」</p> <p>小さい頃と比べて、心や体はどのように変化してきたのだろう。</p> <p>○自分の体の成長を確認する。○自分の心の成長に気付く。○心の様子が体に表出する場面を思い起こし、心と体に関係していることに気付く。</p> <p>↓</p> <p>○心も体と同じように成長していることに気付く。 - Aグループ ○心と体が、深く影響し合っていることに気付く。 - Bグループ</p> <p>AとBのグループに分かれて、心の健康について調べよう。</p> <p>○調べたい課題を決め、予想を立てながら課題解決的な学習に取り組む。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">Aグループ</td> <td style="width: 50%;">Bグループ</td> </tr> <tr> <td>「私たちの心ってどんなふう に発達してきたのだろう」 「心の発達」</td> <td>「心と体はどのように関係し 合っているのだろう」 「心と体の密接な関係」</td> </tr> </table>	Aグループ	Bグループ	「私たちの心ってどんなふう に発達してきたのだろう」 「心の発達」	「心と体はどのように関係し 合っているのだろう」 「心と体の密接な関係」
Aグループ	Bグループ					
「私たちの心ってどんなふう に発達してきたのだろう」 「心の発達」	「心と体はどのように関係し 合っているのだろう」 「心と体の密接な関係」					
2	自分の課題解決に向けての計画を立てることができる。	<p>調べる方法を決めて探ってみよう。</p> <p>○方法 インタビューやアンケート ○対象 クラスの友達 6学年 保護者など</p>				
3	調べたことをまとめる。	<p>みんなに知らせるために、自分たちが調べたことをまとめよう。</p>				
4	調べたことを発表し合い、二つの課題についての理解を深め、心の発達にしたがい、不安や悩みが出てくることを理解する。	<p>自分たちが調べたことをみんなに広めよう。</p> <p>○「心が発達していること」と「心と体が密接な関係にあること」を体験を通して、理解する。</p> <p>↓</p> <p>○「心の発達」に伴い不安や悩みが出てくることを知る。</p> <p>↓</p> <p>○不安や悩みについて話し合い、少しでも軽くできる方法を知る。</p>				
5	<p>心の不安や悩みの対処法を体験し、自分に合った方法を見付ける。</p> <p>「心の健康」の学習で学んだことをまとめる。</p>	<p>心の不安や悩みは、どうしたら軽くすることができるだろう。</p> <p>○「不安や悩みの対処教室」で自分の対処法を出し合い、いくつか全員で体験する。☆音楽を聴く。☆友達や大人に相談する。「ロールプレイング」 ○☆「体ほぐしの運動」を体験し、対処法の一つであることを知る。</p> <p>↓</p> <p>心の探検隊になって、分かったことをまとめよう。</p> <p>○今まで学習した「心の健康」についてのまとめをする。</p>				

② 授業事例 (5/5時)

本時のねらい ・心の不安や悩みの対処法を体験し、自分に合った方法を見付ける。
 ・「心の健康」の学習で学んだことをまとめる。

・支援 ◎評価

学 習 活 動	教 師 の 支 援
<p style="text-align: center;">心の不安や悩みはどうしたら軽くすることができるだろう。</p> <p>1 調べてきた不安や悩みを軽くする方法を発表する。</p> <p>どんな方法があったか発表してみよう。</p> <p>運動する。遊ぶ。</p> <p>大声を出す。寝る。食べる。</p> <p>ゆっくりとお風呂に入る。</p> <p>声をかける。相談する。</p> <p>友達とおしゃべりする。</p> <p>2 心と体をリラックスすることが大切だということを知る。</p> <p>「不安や悩みの対処教室」をしよう。</p> <p>(1) 音楽を聴く。</p> <p>音楽を聴くと心がゆったりした気がしたよ。</p> <p>(2) ロールプレイングをする。 ○相談する側と相談される側に役割分担をする。</p> <p>話してみて、すっきりしたよ。</p> <p>(3) 「体ほぐしの運動」をする。</p> <p>心も体もリラックスできたよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みの原因を取り除く方法と、軽くする方法の2つがあることを知らせる。 ・よりよく対処できる方法に目が向くようにする。 ◎いろいろな対処法を知ることができたか。 ・リラックスのできる環境（部屋の広さや室温など）を整える。 ・だれにも将来、不安や悩みが起きることを知らせる。 ・自分に合った対処法を見付けられるようにする。 ・音楽の聴ける機器を用意する。 ・ロールプレイングについては台本を用意する。 ・「体ほぐしの運動」についてはゆったりとした気分になれるものを選ぶ。 ◎体験を通して対処法を実践しようとする意欲がもてたか。
<p style="text-align: center;">「心の探検隊」になって、分かったことをまとめよう。</p> <p>3 本単元で学習したこと「心の健康」についてのまとめをする。</p> <p>心の探検隊になってどんなことがわかったかな。</p> <p>心は脳のはたらきによること。心は成長とともに発達すること。</p> <p>心と体は結び付いていること。</p> <p>成長にしたい、だれにも不安や悩みが出てくること。</p> <p>自分に合った対処法があること。</p> <p>学習したことをどんなふうにかかしていきたいかな。</p> <p>もっと心を発達させたいな。心も健康でいたいな。</p> <p>不安や悩みがでてきたら、今日のことをやってみようかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」を読み返し、学習したことを振り返ることができるような声かけをする。 ・わかったことや感じたことなどを「心のノート」にまとめられる時間を確保する。 ◎心の健康について学習したことをまとめることができたか。 ・本時で学習した対処法だけでなく、単元を通してこれからの生活に生かしていけそうなことに目がむくように支援する。 ・生かしていけそうなことを「心のノート」に書く時間を確保する。 ◎学習したことを生活にいかそうとしているか。

(5) 第6学年 「病気の予防」(8時間扱い)

①学習過程

単元のねらい

- 病気の予防について理解できるようにする。
 - ・病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわりあって起こること。
 - ・病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体を体に入れないことや病原体に対する体の抵抗力を高める必要があること。
 - ・生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事や口腔の衛生など、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

時	ねらい	学 習 活 動 (☆体験的な活動)
1	<p>病気について理解する。 (自分の生活に関心を持ち一人一人の生活習慣を振り返る。)</p> <p>かかった病気や知っている病気を取り上げ、病気の発生要因について理解する。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">病気の起こり方や予防について考えよう。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">病気とは何か? どんな病気があるかを考える</p> <p>○病気について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気についての初歩的な理解ができるようにする。 ・病気と健康の違いについて意識できるようにする。 <p>○簡単な生活チェック表を参考に自分の生活習慣を振り返ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のこととして振り返られるように、簡単な生活習慣チェック表を事前に配っておき、記入しておくよう指示する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">病気の要因について考えよう。</p> <p>○「かぜ」など身近な病気を取り上げ、病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわって起こることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権的な配慮をする。 ・第4時に使う生活行動チェック表を配り、記入しておくように指示する。
2	<p>病原体がもとになって起こる病気を取り上げ、病気の起こり方について理解する。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">病原体がもとになって起こる病気の起こり方について考えよう。</p> <p>○「インフルエンザ」などを例として病気の起こる原因を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気の原因と病気の因果関係を複合的に考えるようにながす。 <p>○目に見えない細菌(ウイルス)が原因になっていることを理解するためにあらかじめ培養していたものを見て細菌の存在を理解する。</p> <p>☆寒天地培養実験を行う。(結果が出るまで24時間ないし数日かかる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌の取り扱いに十分配慮する。 ・寒天地を用意し、児童の手の細菌を採取する。
3	<p>病原体を体の中に入れないことや体の抵抗力を高めおくことが大切であることを理解する。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">病原体がもとになって起こる病気の予防について考えよう。</p> <p>○培養された細菌を見ることによって、病原体の体内への進入経路について考え、防ぐ方法を考える。(手洗い、うがいなど)</p> <p>○体の抵抗力を高める方法を考える。(予防接種や調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他にも、環境を整えるなどの予防方法があることを理解できるようにする。
4	<p>生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の起こり方について考える。</p> <p>望ましい生活習慣について考える。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生活習慣病の要因や、自分の生活行動の問題点を見付け、予防方法を考えよう。</p> <p>○生活行動チェック表を参考に自分の生活行動の問題点を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事(栄養)、休息(睡眠)、運動などの観点から考えるようにする。 <p>○より健康な生活を送るための生活行動を考える。(適切な運動・調和のとれた食事・口腔の衛生など)</p>

時	ねらい	学 習 活 動 (☆体験的な活動)
5	<p>自分たちの生活の中には、自らの健康に悪い影響を及ぼす行動があることを理解する。</p> <p>喫煙や飲酒、薬物乱用などが体に及ぼす影響について調べる計画を立てる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分たちの生活行動とかかわって、他にも健康を損なわせるものがあることを調べよう。</div> <p>○自分たちの生活行動や病原体以外にも、健康を損なわせるものがないか話し合う。(喫煙、飲酒、薬物乱用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それらも自らの行動によって健康を損なうことがあることに気付くようにする。 ・薬物乱用について児童から出にくい場合には、提示する。 ・薬物については、シンナーなどの有機溶剤を取り上げ、覚せい剤などの様々な物があることに触れる。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用については、法律で年齢制限されたり、禁止されたりしていることや低年齢からの乱用は特に害が大きいことにも触れるようにする。 <p>○テーマごとにグループをつくり学習計画を立てて、喫煙や飲酒、薬物乱用などから、体に及ぼす影響などについて調べる。</p> <p>☆調査活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる計画を立てることで学習の見通しがもてるようにする。 ・調べる活動の時間を確保するために、次時までの期間をあける。
	<p>取材のために一週間あける。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習計画に沿って実際に調べてみよう。</div>
6	<p>喫煙や飲酒、薬物乱用などが体に及ぼす影響について調べ、まとめる。</p>	<p>○前時に考えた計画に沿って課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる意欲を高めるために文献やビデオ、写真などの資料をあらかじめ準備しておく。 ・課題ごとのグループ間で情報交換することで内容の質を高める。 <p>○調べた内容の発表準備をする。</p>
7	<p>調べたことを発表し合うことで、課題に対する自分の考えを深める。</p> <p>ロールプレイングを通して断り方を身に付ける。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">調べた内容を発表したり、誘惑の断り方を練習したりしよう。</div> <p>○調べたことや分かったことを課題ごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容の理解を深めるために、感想や質問などの意見交換を行う。 ・発表を分かりやすくするために資料の提示の仕方(ビデオや写真、実験結果)を効果的に活用するように助言する。 ・発表内容をより深く理解するために、ワークシートを活用する。 <p>☆教師が提示するロールプレイングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断る役を順次に交代して行うようにする。 ・ロールプレイングを行って感じたことや考えたことを口頭で発表する。
8	<p>これまでの学習を振り返り自分の今後の健康な生活について考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">これまでの学習をまとめ、自分の健康プランを考えよう。</div> <p>○病気の予防を学習してわかったことや気を付けたいこと、今後の生活の仕方をワークシートに記入し発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを深めるために、これまでに学習したことを一つずつ取り上げながら確認する。 ・記入したことを発表することで、自分が今後、健康な生活を送ろうとする意識を高める。

[表現運動]

I 研究主題

表現運動の楽しさを求め、自ら活動を工夫する体育学習 ーリズムダンスの学習を通してー

II 研究主題設定の理由

現在の子どもたちをとりまく生活環境は、急激に変化し、運動に興味をもち活発に運動する者とそうでない者との二極化が進んでいる。また、いじめや不登校などの様々な問題の背景にある対人関係をうまく築けない子どもたちの増加も指摘されている。

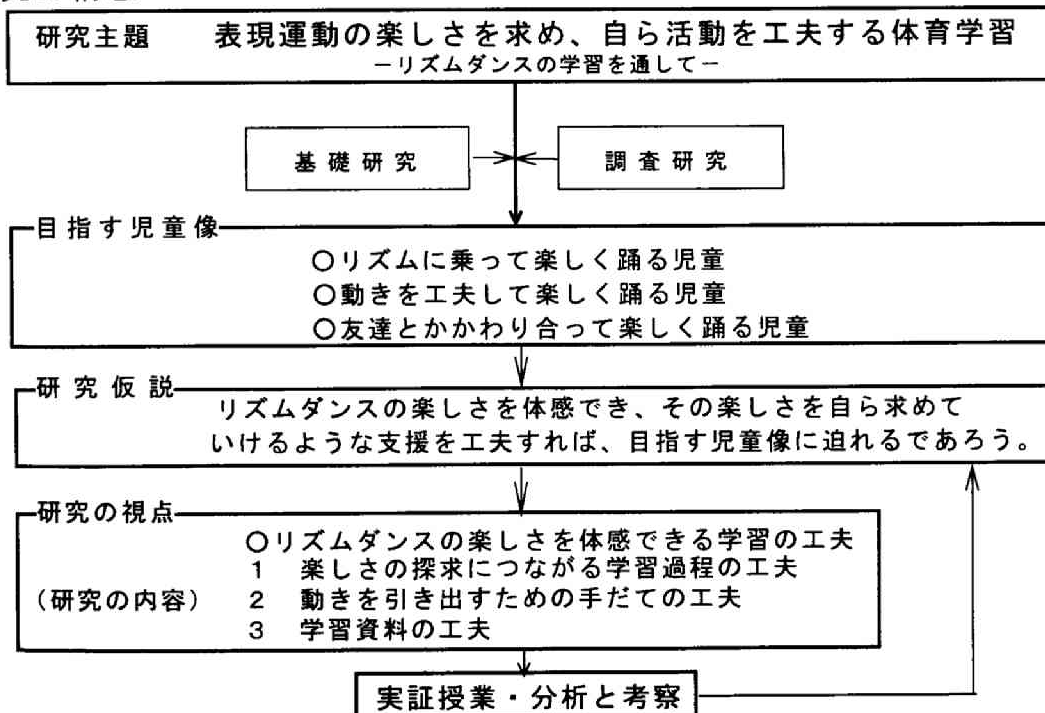
こうした現状の中、学習指導要領が改訂され、体育科においては、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」ことが目標として示された。

表現運動領域のリズムダンスは、達成型や競争型の学習とは異なり、動くこと自体で楽しさを体感していくことができる。また、踊る過程において、動きや息を合わせるなどの仲間とのかかわりが自然に生まれる運動である。このことから、表現運動の楽しさを求めることが、学習指導要領の改訂の趣旨である「子どもにとってやさしい運動で体を動かす心地よさや楽しさを体感させること」と「仲間とのかかわり合い」に迫ることにつながると考えた。

また、この運動は、リズムダンスの楽しさを求めて自ら活動を工夫していくことがめあてとなる学習であると考えた。

そこで、本年度は、「表現運動の楽しさを求め、自ら活動を工夫する体育学習」を研究主題とし、表現運動のリズムダンスに焦点を当てて研究を進めることにした。

III 研究の構想



IV 研究の内容

1 調査研究

(1) 調査の目的

表現運動領域（特にリズムダンス）における児童の意識や動きの実態と教師の意識を探り、本年度の研究を進めていく上での手がかりとする。

今年度は従来の質問紙法に加え視聴覚機器の活用による調査方法を導入し、より多角的な面から実態を明らかにすることにした。ただし、今回の調査は新学習指導要領への移行措置期間中であるため、学習経験や指導経験を通しての調査ではない。

(2) 調査の方法

- ①調査期間 平成12年6月中旬～下旬
- ②調査方法 ア 質問紙法による意識調査
イ デモテープによるリズムダンスに使用したい曲の試聴調査
ウ VTRによる動きなどの実態把握

③調査対象と対象者数

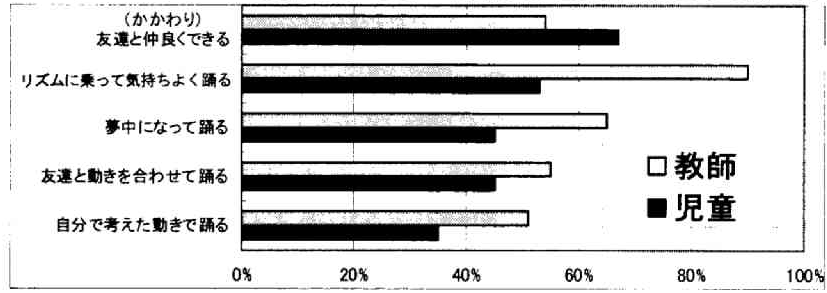
児童 研究員所属校の第3, 4, 5, 6学年児童
教師 研究員第3分科会所属校及び所属地域の教師

質問紙法		第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	合計
		児童	239人	264人	279人	
	教師					314人
試聴調査	児童	295人	294人	267人	308人	1164人
	教師					341人
VTR調査	児童	各学年9～10学級				38学級

(3) 調査の結果と分析

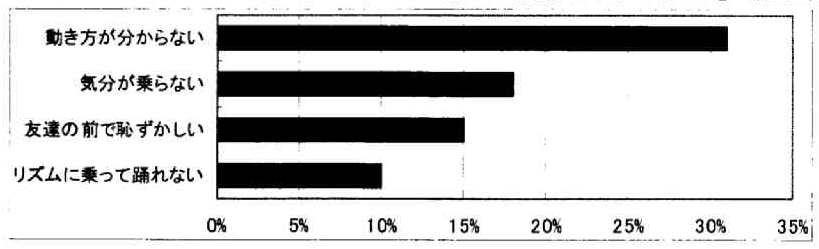
ア 質問紙法による意識調査

・「リズムダンスで楽しいのは（触れさせたい楽しさは）どんなことですか」《児童（教師）》



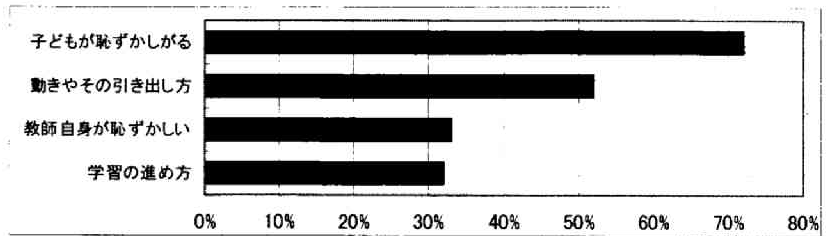
上位の5項目では、割合や順位は違うものの、かかわり合い、リズムに乗って踊ること、動きを工夫することがリズムダンスの楽しさであることとらえていることは、児童・教師ともに共通している。

・「リズムダンスで楽しくないと感じる点は何ですか」《児童》

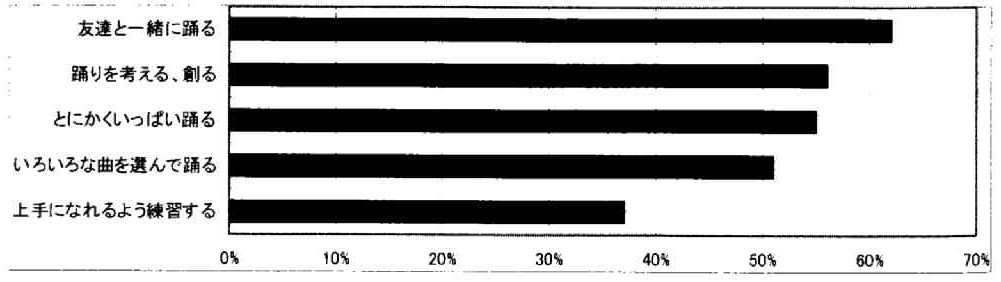


動き方が分からないことで楽しくないと感じる児童が最も多く、恥ずかしさなど内面的な理由はその約半数であった。教師は指導上の難しさとして子どもが恥ずかしがるという理由を7割以上があげた。また約半数の教師が動きの引き出し方が難しいと感じている。

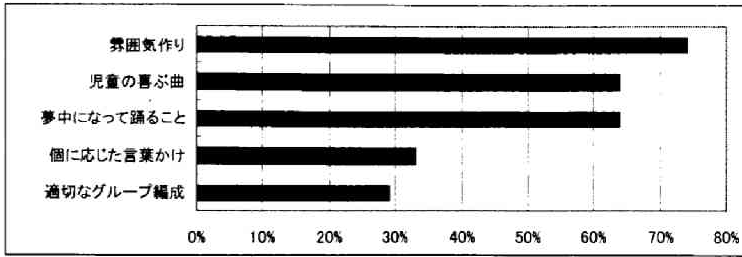
・「リズムダンスの指導で難しいと感じる点は何ですか」《教師》



・「どうすれば、リズムダンスが楽しくなると思いますか。」《児童》



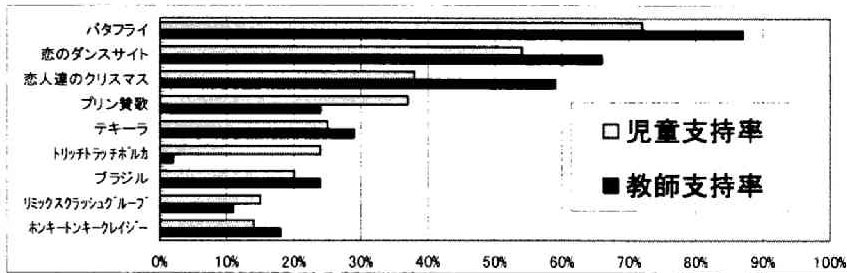
・「リズムダンスを指導するとき大切にしたいことは何ですか」《教師》



リズムダンスを楽しくするための要素として、児童の6割が友達とのかかわりをあげている。また、動きを考える・いっぱい踊る・曲を選ぶといった学習内容に関しても過半数が目を向けている。
教師は指導の際に、雰囲気づくりや選曲などの支援を上位にあげている。

イ デモテープによる試聴調査

この調査は、児童が体験的に一度リズムダンスを踊った後に実際に曲を聴き、回答をしたものである。また、教師にも実際に聴いてもらい回答を得た。サンプルとしては、リズムのジャンルやテンポの異なる下の9曲を取り上げ、そこからリズムダンスに適した曲に共通する要素を探った。
・「リズムダンスではどの曲で踊ってみたいですか（使用したいですか）」《児童（教師）》



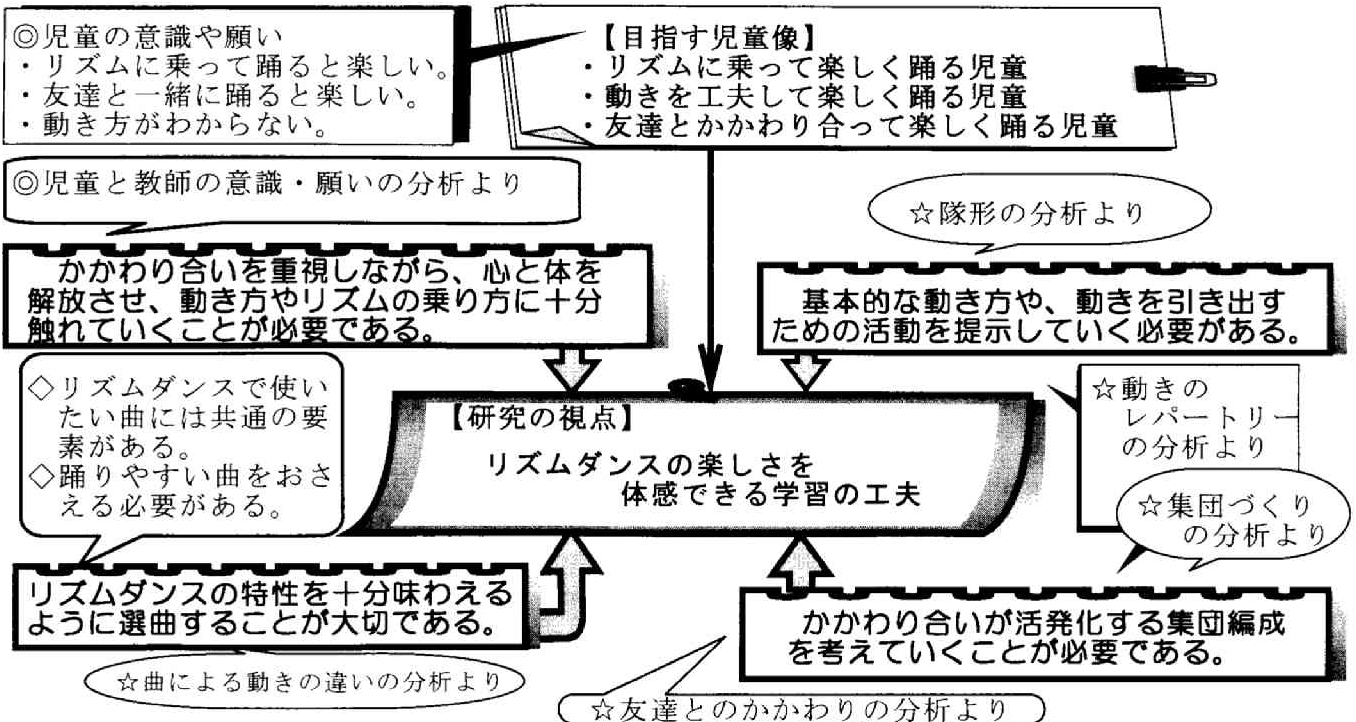
児童がダンスをする際に好む音楽には
①現代的なリズム
②歌詞よりもリズムを重視
③親しみやすいメロディー
④音色は軽やかなもの
以上のような傾向がある。

ウ VTRによる動きなどの実態把握

この把握は「曲に合わせて自由に踊る」という条件の下で、『だんご3兄弟』、『ゴールドフィンガー'99』、『エブリバディジャム』の3曲を順に一度踊ってもらい、その様子を撮影し分析した。なお、その分析の観点「動きの種類」、「曲による動きの違い」、「踊っているときの 隊形」、「集団」、「友達とのかかわり」という5点とした。

- 基本的に足でリズムを取る。動きのよい児童はレパートリーが多く、組み合わせる。
- 男女間で動き方に違いが認められる。
- 曲により引き出される動きに違いがある。
- 隊形は向かい合う、円になる、横一列がほとんどである。
- 集団で楽しもうとする傾向があり、踊る中で自然なかかわり合いが生まれていく。
- 動きがよく引き出せる集団の人数や構成メンバーがある。

(4) 考察及び研究の視点との関連 ◎質問紙法より☆VTRによる把握より◇デモテープの視聴より



2 研究の考え方と具体的内容

(1) リズムダンスのとらえ方

① リズムダンスの特性 (リズムダンスを通して子どもが触れることのできる楽しさ)

- リズムに乗って、自由に体を動かすことが楽しい。
- アイディアや工夫を凝らし、リズムに合った動きを工夫することが楽しい。
- 形や順番にとらわれず、毎回新鮮な気持ちで踊ることが楽しい。
- 友達の動きをまねしたり、合わせたりして踊ることによって共感できることが楽しい。
- 友達と踊ることを見合うなど、かかわり合うことが楽しい。

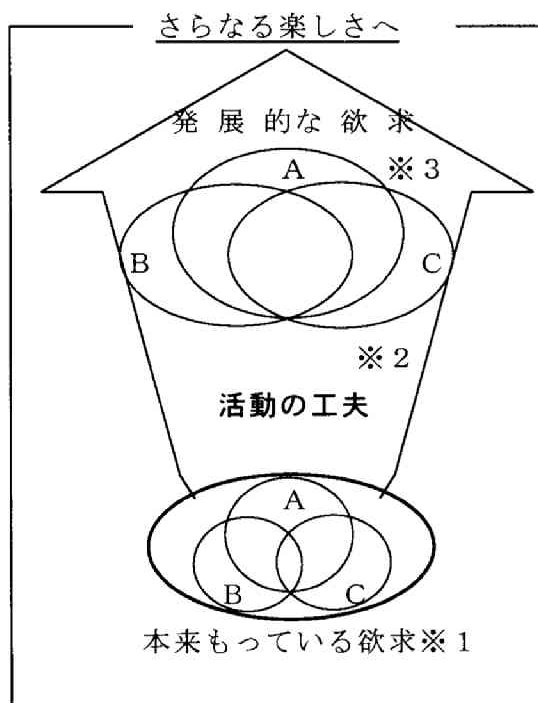
② リズムダンスにおける学び方

リズムに合わせて体を動かしたくなる欲求（本来もっている欲求）を充足していくことによって、自然にさらなる楽しさへの欲求（発展的な欲求）が生まれる。「もっと楽しみたい」という思いから、「どんなふうに楽しみたいか」「より楽しくするためにはどうしたらよいか」などのめあてが生まれ、課題を解決する学習が必要になると考えた。



リズムダンスにおける・めあて学習は
楽しさを探求していく学習である。

- ※1 まず、小学校段階では人間が本来もっている欲求、すなわちリズムに合わせて体を動かしたくなる欲求を充足させ、心と体を一体としてとらえ、心と体の解放をはかることが重要である。
- ※2 活動の工夫の観点を明確にする。
 - ・ 部位・方向・並び方・相手・人数
 - ・ リズムの特徴・乗り方
- ※3 関連し合う三つの主な楽しさは、
 - A リズムに乗って楽しく踊りたい。
 - B 友達とかかわり合って楽しく踊りたい。
 - C 動きを工夫して楽しく踊りたい。

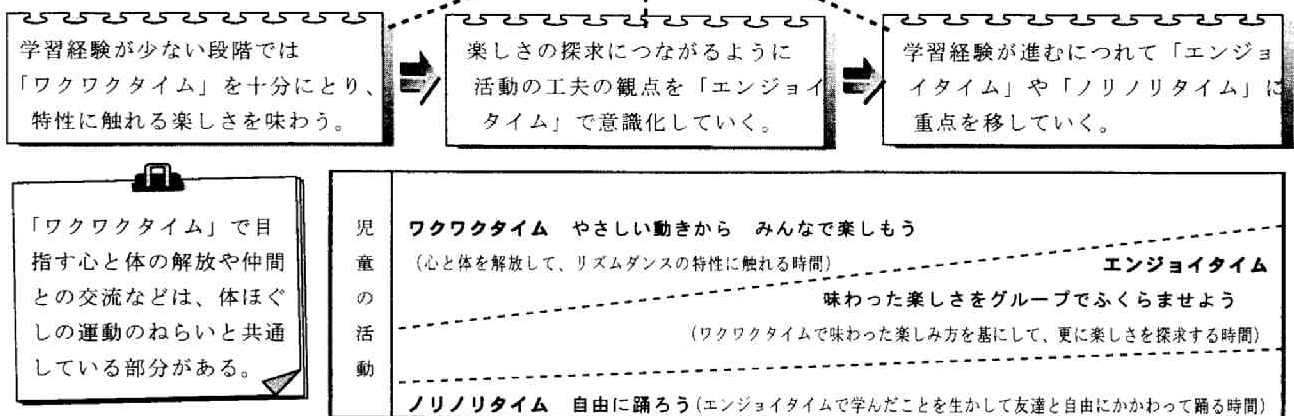


(2) 研究の具体的内容

① 楽しさの探求につながる学習過程

リズムダンスにおいて、児童が自らの楽しさを探求していくためには、心身を解放させながら、リズムダンスの特性を十分に体感できるようにし、それをもとに自己の求める楽しさをめあてとして活動を工夫するプロセスを踏むことが重要であると考えた。

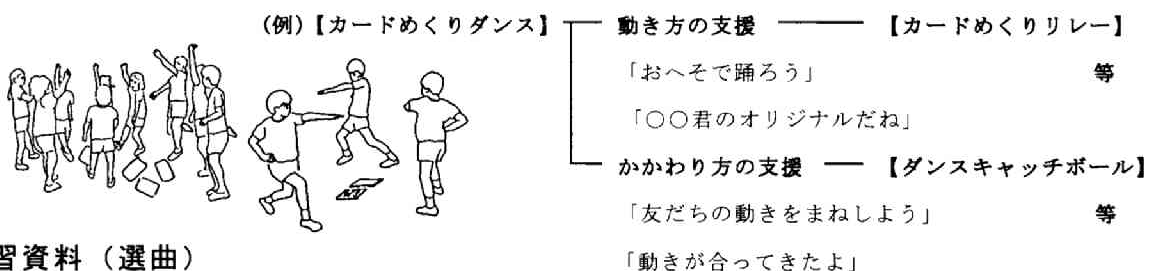
そこで、1単位時間（45分）の学習の流れを「ワクワクタイム」「エンジョイタイム」「ノリノリタイム」の3段階で構成した。さらに、児童の実態や発達段階に合わせて単元の流れや前記の3段階の時間配分を弾力的に扱うようにした。



② 動きを引き出すための手だて

「動き方が分からない」「恥ずかしい」という児童が多い実態を受け、動きを引き出す支援の一つとして、リズムダンスの楽しさを体感できる活動としてダンス遊びを用意した。この活動により児童はリズムダンスの特性に触れ、動き方やリズムの乗り方といった技能を身に付けることができる考えた。

また、この活動では人数、方向、隊形といった工夫の観点を示すことにより、児童自らが活動を変化・発展させることができるようにした。



③ 学習資料（選曲）

初めは、下にあげた児童が好む傾向の曲や乗りやすいリズムの曲を取り上げる。学習の進展により、多様なリズムやテンポに触れさせたり、児童が選択できたりするように支援していく。

- ・ 現代的なリズム、中でもアップテンポなロック・ポップ系のリズムの曲
- ・ 歌詞やイメージよりもリズムそのものを意識しやすい曲
- ・ 親しみやすいメロディー、繰り返しのある展開をもつ曲
- ・ 音色は、比較的軽やかな印象を残す曲

3 実践事例

(1) 第3・4学年「リズムダンス」(5時間扱い)

① 学習過程

(第3学年)

時間	1	2	3	4・5	
段階	楽しみ方を知る		楽しみ方を工夫する		
児童の活動	<p>○学習の流れを確認する。(各時のめあて)</p> <p>動きを変えて楽しむ → 友達と合わせて楽しむ → いろいろなリズムに乗って楽しむ → 自分たちで選んで楽しむ</p> <p>ワクワクタイム 『やさしい動きから みんなで楽しもう』</p> <p>○音楽に合わせて体を動かし、心と体を解放する。 ○ダンス遊びによりリズムダンスの楽しさを味わう。(各時の活動例)</p> <p>《カードでダンス》 → 《合わせてダンス》 → 《リズムでダンス》 ・カードめくり → ・ミラーダンス → ・サンバ・ロック ・ダンスキャッチボール → のびっこり箱</p> <p>○心と体への問いかけの時間 ・ワクワクタイムで味わった楽しさを確認する。</p>		<p>児童の実態に応じた体ほぐし 心ほぐしの運動やダンス遊び</p> <p>○リズムダンスの楽しさや活動の工夫の観点を確認する。</p>		
児童の活動	<p>エンジョイタイム 『味わった楽しさをグループでふくらませよう』</p> <p>○グループごとにさらにダンス遊びを楽しむ。 《こんなふうに工夫してみよう。主な工夫の観点》</p> <p>部位を意識して → 相手や人数を → リズムの特徴を いろいろな方向へ → かえて → 生かして アクセント:変化を付けて → 並び方を変えて → 乗り方を工夫して</p> <p>○心と体への問いかけの時間 ・活動の工夫や味わった楽しさを共有し合う。</p>		<p>○ダンス遊びを選択して楽しむ。 グループで選んだダンス遊びで楽しむ。 → 自分が選んだダンス遊びで楽しむ。</p>		
児童の活動	<p>フリフリタイム 『ふくらました楽しさを生かして自由に踊ろう』</p> <p>○本時の学習を生かし、みんな自由に踊る。 ○学習のまとめ ・本時を振り返り、楽しさを共有し合う。 ・次時のめあてを考える。</p>		<p>○今までの学習を生かし、みんな自由に踊る。 (リズムの違う曲のメドレーで)</p>		
教師の支援	<p>・ワクワクタイムでは、今もっているやさしい動きから始めることで心身を解放し、リズムダンスの楽しさを十分体感できるようにする。 ・心と体への問いかけの時間では、楽しさと工夫の観点を意識できるようにする。 ・エンジョイタイムでは、工夫の観点を具体的に示し、児童自ら楽しさを探求できるようにする。 ・児童の動きを肯定的にとらえ、教師も共に活動することで児童が安心感をもって活動できるようにする。</p>				

(第4学年)

時間	1	2・3・4
段階	楽しみ方を知る	楽しみ方を工夫する
児童の活動	<p>○学習の流れを知る。</p> <p>ワクワクタイム やさしい動きから みんなで楽しもう</p> <p>○やさしい動きのダンスを通して、心と体を解放する。 ○ダンス遊びにより、リズムダンスの楽しさを味わう。 ○心と体への問いかけの時間</p> <p>エンジョイタイム 味わった楽しさを振り返ろう</p> <p>○3年生の時に味わったダンス遊びを振り返りながら、活動の工夫の観点など確認する。</p> <p>フリフリタイム 学習を生かして自由に踊ろう</p> <p>○学習したことを基にして、みんな自由に踊る。 ○学習のまとめをし、楽しさを共有し合うとともに、今後のめあてや計画を立てる。</p>	<p>○学習の流れを知る。</p> <p>ワクワクタイム やさしい動きから みんなで楽しもう</p> <p>○ダンス遊びにより、リズムダンスの楽しさを味わう。 ○心と体への問いかけの時間</p> <p>エンジョイタイム 味わった楽しさを自分たちでふくらませよう。</p> <p>○自分が選択しためあてによりグループをつくり、工夫して踊る。 <活動例> 《カードでダンス・合わせてダンス・リズムでダンス》 ・3年生で経験したダンス遊びを基に工夫しながら踊る。 ・グループごとに自由に工夫しながら踊る。</p> <p>○心と体への問いかけの時間 ・活動の工夫や味わった楽しさを共有し合う。</p> <p>フリフリタイム ふくらました楽しさを生かして自由に踊ろう</p> <p>○今までの学習を生かし、みんな自由に踊る。 ○学習のまとめをする。</p>
教師の支援	<p>・体感した楽しさをめあてとして意識し、楽しみ方の活動を選択したり工夫したり、できるようにする。 ・ワクワクタイムでは十分に楽しさを体感できるようにして、エンジョイタイムでの活動選択や工夫につながるようにする。 ・エンジョイタイムでは、工夫の観点を具体的に示し、児童自ら楽しさを探求できるようにする。 ・児童の動きを肯定的にとらえ、教師も共に活動することで児童が安心感をもって活動できるようにする。</p>	

② 授業事例 (第4学年の3/4時)

ねらい・自分で楽しみ方を選び、活動を工夫することができる。

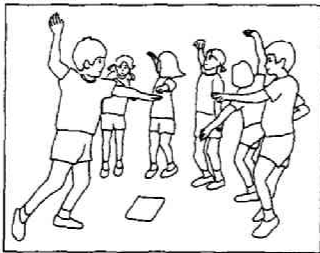
・支援 ◎評価

学習活動	教師の支援
1 本時の学習内容を確認する。	・本時の学習の流れ、内容を確認する。
2 ワクワクタイム ・リズムに乗って友達と全身じゃんけんをする。 ・リズムに合った動き方や乗り方で、友達とリズムダンスを楽しむ。	・じゃんけんの始まりを教師が指示する。勝ったとき、負けたときの踊りを工夫するように指示する。 ・いろいろなリズムの曲(メドレー)を使い、その曲に合った動き方や乗り方を取り入れるようにする。 ◎心身を解放させ、楽しく踊ることができたか。 ◎リズムに合った動きや乗り方で楽しむことができたか。
3 心と体への問いかけの時間 ・ワクワクタイムで味わった楽しさを共有し合う。	・発表し合った楽しさを肯定的に受け止め、リズムダンスの楽しさをみんなで確認し、エンジョイタイムへの意欲付けをする。
4 エンジョイタイム 前半—自分が選択した楽しみ方で踊る。 ・経験したダンス遊びを基に工夫して踊る。 ・グループごとに自由に工夫して踊る。 後半—グループごとに気に入った動きをつなげて自分たちが選んだ曲で踊る。	・人数に応じて4～6人程度のグループを作る。 ・場ごとに使用するカードやミニディスク(MD)を用意する。 ・動きに高まりの見られないグループには、動きのかけ合いやお互いに逆の動きをするなどの工夫ができるようにアドバイスする。
5 フリフリタイム ・「つなげてダンス」でできあがった踊りを発表し合い、みんなで自由に踊る。	・リズムダンスの特性に触れることのできる曲を準備する。 ・「つなげてダンス」の曲の長さは1分を超えない程度とする。 ◎リズムダンスをより楽しむために工夫して活動できたか。
6 学習のまとめ 本時を振り返り、次時のめあてや計画を立てる。	・なるべく曲に切れ目がないように、各グループが選んだ曲をメドレーで流す。グループの選んだ曲が流れたら、中央にきて踊り、周りの児童もそれに合わせて踊る。 ◎学んだことを生かして、リズムダンスを楽しむことができたか。 ・カードを記入し、お互いのよい動きを発表し、次時への意欲を高める。

<動きを引き出すための手だて(ダンス遊びの例)>

カードでダンス

カードに載っている動きの絵を基にして、いろいろな動きを楽しむ。



カードの動きを変化させると動きが広がっていく。
例：前だけでなく左右で、高低差をつけて

リズムでダンス

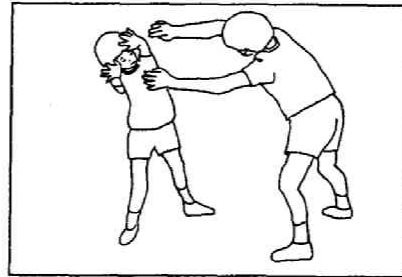
メドレーで曲を流し、リズムに合った動きや乗り方を工夫して楽しむ。



慣れてきたらいろいろなジャンルの曲を取り入れていくとよい。

合わせてダンス

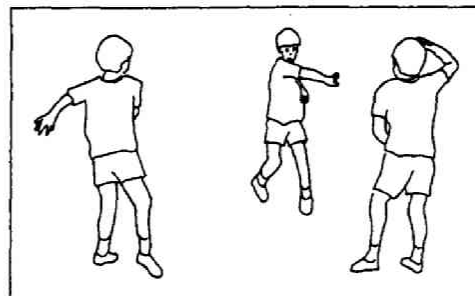
友達同士で動きを合わせたりして呼応して楽しむ。



同じ動きだけでなく、逆の動きをする、交互に動くなどの工夫をしていくとよい。

つなげてダンス

気に入った動きや考えた動きをつなげていき、選んだ曲に合わせて踊る。



児童が用意した曲(リズムダンスの特性に触れることのできる曲ならOK)を使うのもよい。

V 研究のまとめ

本年度は、保健領域、表現運動領域の二つの領域について、それぞれ研究の仮説を基に研究の視点、具体的な手だてを考え、研究を進めてきた。この研究の仮説を検証するために、実証授業後の事後調査、学習カードの読み取り、児童の観察などを行い、児童の変容から次の成果と課題が得られた。

保 健

成 果

- 1 ロールプレイング、実験、実習などの「体験的な活動」を取り入れることは、児童が興味・関心・意欲をもって学習に取り組み、自分の心や体、健康・安全に対する理解を深め、健康・安全な生活の大切さを実感する上で有効であった。
- 2 体験を通じた「実践的な理解」は、児童が、今後の生活に生かしていきたい、こんな方法で取り組んでいきたい、という健康な生活を送ろうとする意志や意欲を高め、健康な生活を送るために必要な対処の仕方を身に付けるなどの「実践していく力」の基礎を培うことにつながった。

課 題

- 1 学習したことをさらに幅広く、深めることができるように、保健学習の位置付けと各教科等との関連を今後さらに考えていく。
- 2 学習したことが、今後の健康な生活の実践に生かされるような支援をさらに考えていく。

表現運動

成 果

- 1 「ワクワクタイム(楽しさの体感)」→「エンジョイタイム(楽しさの探求)」→「ノリノリタイム(味わった楽しさを生かす)」という学習の流れを組むことで、児童がリズムダンスの特性に触れ、楽しさを味わいながら活動を工夫し、学習を進めるようになった。
- 2 「動き方が分からない」「恥ずかしい」などの抵抗感をもっていた児童も、動きを引き出すための手だてとしてダンス遊びを取り入れることで、リズムに乗った動きや工夫した動き、友達とかかわり合った動きが自然と生まれるようになり、手だてが有効であった。
- 3 児童になじみのある曲だけでなく、様々なリズムの曲を用意することで、より意欲的になり、いろいろな乗り方や動き方をするようになった。

課 題

- 1 児童の発達段階・学習状況に応じた楽しさ探求のための手だてを明確にしていく。
- 2 「表現リズム遊び」や「表現」との系統性を考慮に入れた学習計画を立てていく。
- 3 楽しさを探求する学習における評価の観点・評価基準を明確にしていく。